令和元年度 第1回 伊豆市まち･ひと･しごと創生総合戦略検討会議 会議録

【日　時】令和元年８月 26 日（月）　14 時～16 時 10 分
【場　所】別館２階 大会議室
【出席者】29 名　（敬称略）

機関・団体・役職名等	氏名	役職
伊豆市商工会長	杉山　羌央	会長
伊豆市総合計画審議委員	植松　真由美	副会長
伊豆市観光協会長	長谷川　卓	委員
県立伊豆総合高等学校 校長	深澤　富士夫	委員
伊豆市区長会長	萩坂　尚巳	委員
NPO サプライズ 事務局長	野田　康代	委員
伊豆市子育てママスタッフ	工藤　絹衣	委員
JA 伊豆の国 修善寺営農センター長	石川　洋成	委員
静岡銀行 修善寺支店長	宮本　幸夫	委員
三島信用金庫 修善寺支店 次長（※ 代理出席）	土屋　光平	委員
三島労働基準監督署長	松尾　進	委員
三島公共職業安定所長	鈴木　滋	委員
（株）FM IS	仙座　夏子	委員
伊豆市長	菊地　豊	
副市長	本多　伸治	
教育長	西井　伸美	
総合政策部長	堀江　啓一	
総務部長	伊郷　伸之	
市民部長	梅原　敏男	
健康福祉部長	右原　千賀子	
産業部長	滝川　正樹	
建設部長	山田　博治	
教育部長	金刺　重哉	
総合戦略課長	佐藤　達義	事務局
総合戦略課 主幹	山口　吉久	事務局
総合戦略課 主査	杉山　暁彦	事務局
総合戦略課 主任	金子　正仁	事務局
総合戦略課 主任	下村　亮介	事務局
総合戦略課 主事	飯塚　拓也	事務局

【資　料】
- ■ 次 第
- ■ 委員名簿、席次表、検討会議設置要綱
- ■ 資料１-1　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要版）
  - １-2　伊豆市まち・ひと・しごと人口ビジョン（概要版）
- ■ 資 料 ２　第１期総合戦略における取組と施策評価
- ■ 参考資料　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略 成果目標 実績管理表
- ■ 資 料 ３　地方創生交付金関連の取組状況
- ■ 資 料 ４　第１期総合戦略期間における人口推移について
- ■ 資 料 ５　第２期総合戦略策定に向けた考え方について
- ■ 資 料 ６　策定スケジュールについて

１．開　会

２．委嘱状交付

※ 新規の委員及び役職変更等で交代された委員
・伊豆市観光協会長　長谷川 卓 氏
・伊豆市区長会長　萩坂 尚巳 氏
・伊豆市子育てママスタッフ　工藤 絹衣 氏
・ＪＡ伊豆の国修善寺営農センター長　石川 洋成 氏
・三島公共職業安定所長　鈴木 滋 氏

３．市長挨拶

皆様こんにちは。大変ご多忙の折、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略の１期目が終わり、２期目に向けて、皆様のご意見を承りたいと思います。

昨日、ＮＨＫホールでパラリンピック１年前イベントがあったのですが、来年の東京2020大会がオリンピックとパラリンピックを合同で準備する初めての大会となるそうです。まさに共生社会、多様性をしっかりと受け取る社会、新しい21世紀の人間社会の在り方として、大変心強く思いました。そのような社会環境の中で、総合戦略をどのように定義づけ、どのように推進していくかですが、総合計画がありながら総合戦略を策定したきっかけとなったのは、やはり消滅可能性都市、人口減少に対する危機感からであったと思います。伊豆市には様々な産業がありますが、観光を基盤とする産業でなんとか人口減少の活力を補えないかということがあります。人口イコール活力ではなく、伊豆市の場合は、基幹産業である観光、そして農林業・製造業等を総合的に進めることで、活力を維持したいということが１つあり、もう１つとして、社会・地域を維持するために必要な人口として子どもの数200人という目標を設定させていただきました。これは人口推計から判断した数値です。修善寺地区は修善寺駅半径１キロ程度の場所に高校・中学校・小学校・こども園・病院・ショッピングセンターがあり、ここを活力の拠点にしたい。したがってそこにある小学校は、いわゆる適正と言われる３クラスを維持したいし、中伊豆と天城は小学校を維持するためになんとかクラス替えできる程度、つまり40人程度の子どもがいてほしい。小学校を存続できる１クラス20人程度を維持するため、200人程度という数値になっています。天城・中伊豆は修善寺が生活圏となるため、引っ越しや転校へのハードルが低く、子どもが少ないと、どうせバスで通学するのだから、伊豆市の小学校でなく隣の市の小学校へ通学することになってしまったケースが実際にありました。例えば土肥は１クラスの子どもたちで、授業として成立する場合もありますが、市長としてはこの数値を目標にしたいと思っています。残念ながら出生数は120人程度でかなり下回っています。何とか生まれた子どもの数より、今いる子どもの数、子どもに注視すれば、減少人口がやや多いくらいになっていますが、さらにしっかり成果としてあげるためにどのような事業が必要かという論点になってまいります。これから事務局から、個別の事業について説明がありますので、しっかりと皆様からのご意見をいただいて、どこに問題があるのか、どこに成果があるのか、サイクルをしっかり形づくってまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

４．会長・副会長の選任

会　長：杉山　羌央 氏
副会長：植松　真由美 氏 に決定

（会　長）

ただいま、昨年に引き続いて会長となりました商工会長の杉山です。議事の内容もなかなか難しい問題ですので、皆様のご協力・活発なご意見を是非ともいただきたいと思います。改めましてよろしくお願いいたします。

まち・ひと・しごと創生総合戦略は、平成27年度から平成31年度までの５か年計画の目標を策定し、毎年、委員の皆様からの評価をもらっているところです。今回、皆様に評価いただきたいのは４年目にあたる平成30年度の内容となります。資料を見ますと、４年目となりますが、第１期の総括をある程度行いつつ、第２期の策定に向けても取り組むこととなります。皆様と有意義な意見交換を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

５．議　事

（１）伊豆市総合戦略概要について　【資料１-１・１-２】
（２）第１期総合戦略における取組と施策評価について　【資料２】
（３）地方創生交付金交付金関連の取組状況について　【資料３】
（４）第１期総合戦略機関における人口推移について　【資料４】 に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

（委　員）
私は観光協会長という立場で出席させていただいている。私自身も修善寺温泉で旅館業を営んでいるが、伊豆市における産業の中で、観光業は非常に重要な位置づけであるので、観光業について発言させていただきたい。
人口減少が進行する中、日本の国策としてインバウンド施策が一斉に動き出し、かなりのペースでインバウンド人口が拡大している状況である。当初、中国・台湾・アジアの近隣諸国から動き出しているが、よりお金を消費するであろう欧米諸国に向けた動きも始まっていると理解している。この動きは伊豆市が伊豆市長と進めてきた戦略とマッチしているのではないかと感じている。少しでも多く消費してくれる観光客を呼び込むことが、重要ではないかと思う。そのためには、インバウンドも非常に重要だが、国内のお客様にも、少しでも長く伊豆市に滞在してもらい、日帰りも良いが、なるべく大きな買い物・消費をしていただく整備を進めるべきだと思う。やはり高いお金を支払う以上に満足感が得られれば、財布の紐が緩むと思う。伊豆市においても、私自身のインバウンドビジネスにおいても、同様に考える。伊豆市が進む方向として、このように感じる。

（委　員）
本校は土肥分校と両校あるが、伊豆総合の生徒においては全体の50％が就職、50％が進学であり、工業科においては70％の生徒が就職する。地元の就職が非常に多いことから、本校としては、今回の資料にあるように、働ける場所を確保していただくと、子どもたちの進路に関して、非常にありがたいと感じる。また、ＩＴ企業等の企業誘致は伊豆市でも色々と動いていただいているということで本校も心強く思う。地域との連携も非常に重要視しており、修善寺での大掃除、そして伊豆総ミュージアムにも協力いただき、地域に理解される高校を目指している。それからSociety5.0の議題において、本校も次の世代に役立つ人材育成というなかで、大学改革等がある。自分で考えて行動するという非常に大きなテーマであるが、これからの社会において力を発揮していきたいと思う。それから昨年度には、高校総体の自転車競技においてもご協力いただき、感謝申し上げる。全国から来た高校生は非常に感動を覚えて帰られたと感じている。2020年はオリンピックということで、できるだけ多くの高校生が関わらせていただきたいと考えている。

（委　員）
今年度の区長会長ということで委員となった。初めてで理解できていないこともあるが、よろしくお願いしたい。一つ教えていただきたいが、資料４の伊豆市の人口動態の社会動態において、1,200人ぐらいの転出があるが、主に転出される世代はどの年代か。若い世代か。

（事務局）
詳細な資料が無く、申し訳ないが、進学を機に転出をするケースが多く、14歳から20歳の年代が多いのが現状である。卒業後に伊豆市へ戻っていただくと良いが、大学時代は伊豆市に住所を置きながら、就職時に住所を移すことから10代後半から20代のＵターンが進まず、外へ出ていく住民が多い年代となっている。20代においては特に観光関係への就業で多くの若い方が転入しているが、ある一定期間が経つと20代の方が出ていくということで、転入・転出ともに非常に多くなっている傾向がある。30代・40代の子育て世代の一番留まってほしい年代は、転入・転出においてマイナスだが、最近は減り幅が少なくなり、少しずつではあるものの、子育て世代の外に出る率が抑えられつつある傾向である。

（委　員）
若い子の働く場所がなく、例えば隣の市に住んだりしているが、伊豆市にいても安心だと思えば残ると思う。転出が減ってきいていることは良いことだと嬉しく思う。

（委　員）
　私も人口動態の話だが、伊豆市移住相談センターではここ２・３年で子育て世代の方々からの移住相談が少しずつ増えている。子どもを自然環境豊かなところで育てたいという要望があり、先日も入居された方がいるが、その方たちは仕事が決まる前に移住したいということで、先行して移住し、現在、仕事の関係を調整しているところである。子育て世代にとっての環境としては非常に豊かで人気もある。伊豆というワードも人気が高いと聞いている。ただ、観光業への就業促進として、観光業は一般の仕事より給料が高いという動きを説明し、勧めるものの、子どもが成長したときに土日・祝日、夜の仕事が出来ないという課題が解決出来ていないため、二の足を踏まれる方が多いという状況である。休日保育は少しずつ充実してきているが、子どもが小学校・中学校・高校に上がっても、そこに住み続けながら親が働ける環境づくりを進める必要がある。子どもが小学生になったら、学童保育を夜間や日・祝日にやってくれないということも会話の中で出てきている。このような部分に対する取り組みが、観光業への就職率や移住促進へつながっていくのではないかと思う。

（委　員）
　ママスタッフとして子育て情報誌「family‐izu」の制作を手伝っているが、情報を探すのが大変であると感じる。私自身も三島から、何も情報がないままこちらに嫁いできたなかで、情報がなかなか集められないということを最初に痛感した。子育てするには伊豆市はとても恵まれており、色々な支援もあり、私も周りの人たちも暮らしやすくて良いところだと思っているが、情報を入手することが難しいと感じている。インターネット等を活用しながら皆さんからの情報を集めることができれば、もっと魅力的な市になっていくと思う。

（委　員）
　私からの意見は、Wi-Fi整備についてである。市内でも様々な場所にWi-Fi環境が整備されて良かったと感じるが、現在、Wi-Fiに接続するためには、利用規約の確認等の３段階でようやくインターネットにつなげることが出来るといった状況である。他の色々なWi-Fi接続サイトを見ると、最初からすぐにWi-Fiに接続出来るものもある。外国から来られた方はすぐに情報を取りたい、SNSで発信したいという気持ちがある方が多いと思うので、利用規約を押して３段階でWi-Fiにつなげるのではなく、すぐにつながる仕組みをつくっても良いかと思う。
　また、自分自身も移住して６年経つが、やはり外から来る若者の話や自分と同世代の方の話を聞くと、伊豆市は観光地なので、実際に住むとなった時にはギャップもあるといった意見も聞く。私自身も実際に住んでいる中で、移住・定住について皆さんと考えていけたら良いと思う。

（委　員）
　僭越ながら資料を作ってきたため、それを基に意見させていただく。先ほど、伊豆市は人口減少が厳しいという話であったが、昨年の資料を見ると、伊豆市の中だけで考えられていると思い、近くの市町も併せて載せさせてもらった。
　経済センサスの従業者数・事業所数が掲載されているが、市町において何が強い産業かがわかると思う。伊豆市は観光・宿泊の関係が多くなっていることがわかる。所得と人口の増減率についてもだが、明らかに三島管内よりも沼津管内の一人当たり市町民所得が多くなっており、人口の増減率もプラスになっている。推定人口の増減率については、伊豆市の落ち具合は最初、緩やかだが、後ろの方は５年間隔になっているため、急激に減っている。次に高齢化率だが、社人研の調査によると、2045年に熱海市を抜くと推計されている。ハローワーク三島、静岡の求人倍率を見てみると、今までは求人倍率が高ければ良いと言われていた時代だが、求人倍率が高くても働く側は良いが、会社にとって回復はしていない状況になる。先ほど若い世代は出て行ってしまうという話があったが、これは静岡県全体の問題でもある。静岡県が数年前に調査した結果では、県内でやってみたい仕事や勤め先がない、給与水準の高い仕事がないと言われている現状がある。また、最近では全国的にも伊豆地域の中でも観光業、ホテル・旅館の休業日を設けるところが増えている状況もある。秦野市の「元湯陣屋」では、従業員数を減らし、人件費の削減を図ったことにより、社員の給料が上がったことがネット記事に掲載されている。働き方を改革し、マルチタスクな稼働法が必要だということである。また、ハローワークの立場から、助成が何かできないかを考えた時に、企業は働き方改革と生産性向上のために、各種助成金の活用をしていただきたい。昨年の会議の中での「伊豆市はこれだ」という部分をだせれば良いという意見から、私なりに「伊豆市はこれだ」というものを考えてきた。宿泊客数100万人や観光交流客数400万人はすごい数字だと思う。この人たちを味方につけることが必要だと思う。働き方改革

に基づき、働く人をもっと優遇してもらいたいと考える。休みを設けてもらい、予約可能なホテル・旅館へ行って日帰り入浴無料のパスポートをつくるのも良いのではないかと思う。また、先週のNHKで女性社長比率は県内トップということもやっていたので、その辺も工夫すると良いと思う。最近では、長野県と和歌山県で市町の方を集めて、ワークとバケーションを合わせたワーケーションの会合を開催したようだ。県内では静岡市と下田市が加わったようなので、参考までに配布させていただく。

（委　員）
　三島労働基準監督署はハローワークとともに静岡労働局として、昨年から働き方改革の説明やセミナーに力をいれており、少子高齢化や人口集中についても話をしている。伊豆地域における状況はもっと激しく、特に若年層の転出、15歳から30歳の転出傾向が顕著に表れている。帰って来てくれれば良いが、なかなか地元に帰って来てくれないという話も聞く。したがって、伊豆地域こそ働き方改革が必要なのではないかと思う。ハローワークは伊豆管内の地域ごとの特色に合わせて、働く人と会社のマッチングをするという仕事であるが、監督署では、各市町村での人口水準までは見ないため、地域ごとの見方は苦手なところがある。そこで15歳から30歳の減少についてだが、伊豆市のこれからの15歳未満の方々が高校を卒業して関東圏へ行き、熱海市・函南町・伊豆の国市ではなく、伊豆市に帰って来る気持ちはどうなのだろうか。どんなところがあれば伊豆市に帰って来るのだろうか。監督署が苦手な分野でもあるため、そういったことを教えていただきたい。

（委　員）
　三島信用金庫は、地域と共に、地域の発展がなければ信用金庫はないという意識で、日々お客様と接しており、伊豆半島を主体に活動している。特に伊豆市はその中心となるので、三島信用金庫の中でも修善寺支店は重要な位置にある。伊豆市の発展に我々も関わりがある訳だが、今回のまち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議の趣旨は人口の維持になるようで、個人的な意見となるが、今住んでいる方を流出させないことが大事だと思う。長期的に人口を維持するためには、やはり働く場所の確保、仕事が必要だと感じる。戦略体系の“しごと”を見ると達成見込みが一番低いのが残念という印象を受ける。企業誘致にも力を入れているという話なので、継続していただきたいと思う。私が修善寺支店に配属されて１年半程度になるが、その間に若い人から起業をしたいという声を聞いている。伊豆市の方は伊豆市愛がとても強いと感じており、戻って来て起業したいと考えている方も多いようである。起業の支援として私たち金融機関は資金面での対応をする訳だが、行政にも絡んでいただけると、我々も支援をしやすくなるため、起業支援を手厚くしていけると良いと感じる。

（委　員）
　２点意見をお伝えする。資料２の成果目標の達成状況だが、“しごと”の部分が11項目中達成出来たのが３指標、“ひと”は５指標、“まち”は５指標と、“しごと”の部分が弱いかと思う。具体的に担当の課を見てみると、観光商工課が多い気がする。ぜひ、産業分野を頑張っていただきたいと思う。もう１つ、IT企業の誘致の関係ですが、当初は非常に良い取り組みで、全国でもトップランナーだと感じたが、スピード感が足りないと感じており、現状どうなっているのか非常に残念なところがある。良いことをやっているので、戦略はスピード感をもってやっていただきたいと思う。来年の達成見込みのところも、“しごと”の部分はなかなか厳しいと思うが、目標を達成し、やりきる思いで取り組んでいただきたいと思う。

（委　員）
　農業関連のことをお伝えするが、伊豆市には全国有数の特産物がある。昨年３月に世界農業遺産に認定されたわさび、そして原木椎茸である。また、伊豆市と協力し、特別栽培米としてコシヒカリを栽培し、伊豆の恵というブランドで販売している。世界有数の特産物がある中で、農業者の減少は顕著である。その要因は高齢化と儲からないという点である。わさびに関しては世代交代されているが、椎茸はかなり人数が減っており、80名しかなく、当時は4～500名いた農業者も今では大分減少している。伊豆市には特産物があるので、儲かる農業にしていき、伊豆市の人口減少を縮小していきたいと思う。

（副会長）
　伊豆市総合計画審議会委員ということで出席させていただいている。短期間で評価が出にくいものが多く、じわじわとしか見えてこないことがもどかしいように感じる。私は子ども時代を伊豆市で過ごし、６年間東京に出て、Ｕターンして自営業を継ぎ、親となり、子どもを育て、さらに孫ができ孫を育て伊豆市に根付いている。様々な補助制度等を見ると、自分が子育てしている頃に比べ、とても手厚くなっておりうらやまし

く思う。若い方は幸せだと思うが、近隣の市町と比べると足りないという要望があるようである。働くところがないという若者と働く人がいないという観光業の皆さんとの温度差が難しいと思うし、働くところがあっても自分のライフワーク的に遠慮しているようなケースもあるように感じる。少しずつ良くなるような施策を皆様と考えていけたらと思う。人口動態の表で15歳以下の人口を見ると子育て世代が増えており希望の光が見えるような気がする。時間をかけてゆっくり考えなければならないが、皆さんと知恵を出し合い少しでも良い市になるよう最後まで頑張っていければと思う。

（委　員）
　８月16日の静岡新聞に掲載された広域財団法人中部圏社会経済研究所が６月に公表した地域力フロー指標と地域力ストック指標を見ると、県内で伊豆市の地域力フロー指標は35自治体のうち25位、地域力ストック指標も26位である。全国的に見ると1740ぐらいの市町があるがストック指標が1169位、フロー指標が799位である。中身を見るとストック指標は働いていない高年齢者を何人の働いている方で支えているかとなる。田舎の方が悪いのではないかと思われるが、全国版を見ると村が１位～３位となっている。なぜかというと農業を高年齢者の方がされていて、私は支えられている状況ではないということのようである。先ほど資料２のなかで、ブランド米や椎茸・わさび、高年齢者の居場所づくりの話があったが、仕事が出来る高年齢者の居場所をつくる必要があると思う。居場所づくりというとここにいてくださいとさみしい感じにもなるが、働く場の提供をすれば、1169位はもっとアップしていくのではないかと思う。

（市　長）
　先ほど企業誘致においてスピード感がないということがあったが、全くその通りである。やはり私どもに話がある時は親切に伝えたい、自由に伝えたいということもある。もう１つは企業誘致に向けた財政支援として、減額で売ることがなかなか出来ない状況であることである。どういう環境整備が必要で、行政からどういった支援策をすると企業が来やすいのかアドバイスをいただけるとありがたい。本当は財政支援が必要だと思うが、何かヒントがあったらお願いしたい。

（委　員）
　企業誘致は近隣自治体でも色々なことをやっているが、とにかく企業が来るメリットを全面的に打ち出す必要があると思う。三島では工業団地があり、伊豆の国市でも区画の売り出しをしている。
伊豆市でやるメリットがあれば企業は来ると思う。サテライトオフィスの件も同様である。私の地元である掛川でもやっているが、沼津でなく三島でもない伊豆市に東京のＩＴ企業が来るためには、何か比較の対象となる伊豆市特有のものがあれば誘致しやすく、プッシュしやすい。そこが何かというと難しいが、メリットを最大限に出していけると良いと思う。

（会　長）
　先ほど第１期総合戦略における取組と施策評価等について資料２による説明があったところである。内容について了承いただければ次に進ませていただきたい。

【異議なし ⇒ 一同了承】

（５）第２期総合戦略策定に向けた考え方について　　【資料５】に基づき、事務局より説明
≪ 質疑応答・意見交換 ≫

（委　員）
　中部圏社会経済研究所の地域力フロー指標には、生活基盤・教育・コミュニティ・住民・福祉・女性の活躍の５項目があり、全国の順位が掲載されている。伊豆市の場合、コミュニティは373位となっている。コミュニティは人と人との絆であるため、コミュニティの強さがかえって外部の方を寄せ付けにくい印象を与えているのかと感じる。
　次に第２期総合戦略の目指すものとして、「子育て施策と教育環境の充実」、「子育て世代に伊豆市の魅力をアピール」とあるが、どのようにアピールするのか具体的に教えていただきたいと思う。「熱海の奇跡」という本では熱海でタクシーの運転手に熱海の良いところを聞くと、「良いところはない」と言い、旅館の人や歩いている人にも聞くと「熱海は何もない」と言われて、頭にきたということが書かれているが、現在の熱海ではそのあたりが変わってきている。子育て世代へのアピールがどういうものかを具体的に作っておくと良いと思う。

（会　長）
　日本人の謙虚さの表れかもしれないが、何か良いところを聞かれて、何もないと答えるということが、本当に良いところがないのか、謙虚に答えているだけなのかわからないことがある。「ここが良いところだ」と答えられることは、地元の人が良いと感じていることであり、素晴らしいことだと思う。

（市　長）
　実は子育て世代に対する施策で幼児教育は評価が高い特徴がある。修善寺東こども園の園長先生が「最高に素晴らしい」と言うが、我々の情報発信が下手であるため、子育ては長泉町が良いといった評価で終わってしまう。先日は「なぜ伊豆市は税金が高いか」と聞かれた。「税金は変えられないので、他と比べ伊豆市の税金が高いことはない。」と答えたが、伊豆市は税金が高い、住みにくい、子育てサービスが弱いというイメージだけが流れているようである。実際に子育てをされている方からは、伊豆市の子育てサービスは良いという意見を聞く。先ほどの情報がとれないところを含め、伊豆市は情報発信が苦手であることを再認識した。それは反省材料として改善させていただきたい。
　もう１つ地域の受け皿については、3,000件ある空き家を１件も貸していただけない状況である。成功するかどうかの確信はないが、市長としてトライしてみたいことは、地域づくり協議会で空き家を提案していただけないかということである。例えば、長泉町は小学校・子ども園・病院がどこにあるか全部言える。伊豆市は住む家だけないことが課題である。行政だけで対応することは難しいため、人口を増やしたい、活力を維持したいということを地域の皆さんで話し合い、使える空き家を紹介していただけないか。地域づくり協議会で、あるいは地域で探していくことから何とかやっていこうと考えている。

（会　長）
　私も個人的に３件の空き家について聞いてみたが、全て断られた。理由を聞くと「仏壇を置いてあるから人に入ってもらいたくない」、「片づけてないから他人に入ってもらいたくない」といったほんの少しのことのように思う。NHKの番組で村の人たちがこぞって「ここが空いているから来てほしい。」と言っている村もあり、伊豆市とは状況が違い過ぎるため、どのように話を進めていけば良いのかを皆さんや行政で検討していただきたい。仕事はあるので、２期目の検討課題にしていただけたら人口問題や地域の活性化についても良い方向へ向かうのではないかと思う。また、それが子育て世代に伊豆市の魅力をアピールすることにも繋がるのではないかと思う。その辺のご意見をいただけるとありがたい。

（委　員）
　空き家を片づけるという支援もある。「日本一おかしな公務員」という本を読んだが、空き家を自分で片づけられない場合は、片づけを手伝ってきれいにしてあげることも手段の一つであると、昨年の会議録を読ませていただき感じたところである。

（会　長）
　確かに汚れているから貸すのが嫌だというのは、本音かどうか分からないが、その理由で断る方はけっこう多いと感じる。
　いつまでも住み続けられるまちを目指す、住民主体の地域づくり、そういった問題点が重なり合って課題は１つのような気がする。まだまだご意見をいただきたいが、この辺で今日の会議を終了したい。委員の皆さんにはそれぞれの立場で地方創生のアイデア、伊豆市の活性化、人口減少対策など、今日の会議などの感想でも良いが、ご意見・ご要望をお願いしたい。次回でも良いが、それまでにお気付きの点等があれば担当課へご連絡いただけるとありがたい。そろそろ時間なので、市長から最後に一言お願いしたい。

（市　長）
　もう少し頑張れば、成果が見えてくると思う。以前、地方創生をはじめた石破先生のところに伺い、「勉強会の時よりずいぶん簡単になってごめんね」と言われた。最初よりも徐々に勢いが弱まっているように思う。一方で石破先生の政策秘書さんから、大学で講義していると首都圏から地方へ移りたいという大学生・若い世代の声があり、もう少し環境が整うと来てくれるのではないかという、意見があった。東京から２時間でこれだけの田舎を抱えている私たちのまちとして、もう一工夫あれば流れが変わり、熱海市ほどにはならないかもしれないが、変わりつつあることを実感できるまでもうひと踏ん張りだと思う。職員も大変苦労しているが、そこまでたどり着くよう頑張らせていただきたいと思う。また、具体的な子育てに関する直接的なご意見も頂戴したいと思う。

（会　長）
　まだご意見はあると思うが、時間となったため、意見交換を終了させていただく。第１期総合戦略における取組み及び施策評価については皆さんからご了承いただいた。その他、本日皆さんからいただいたご意見も含めて検証結果を公表させていただく。以上で本日の議事を終了とする。

６．その他　　【資料６】に基づき、事務局より説明

（事務局）
　皆様、本日は多数のご意見をいただきましてありがとうございました。今、会長から話がありましたように、皆様からいただいた本日のご意見につきましては会長との協議により、検証結果の報告としてまとめさせていただいた上で公表させていただきます。
　今後のスケジュールですが、資料６で今後の日程を説明いたします。本日、第１回市民検討会議ということで、皆様に参加していただきました。本日は平成30年度を含めた第１期総合戦略の進捗状況と評価、第２期に向けた皮切りをさせていただきました。毎年、この市民検討会議は評価ということで１回の開催とさせていただいておりましたが、冒頭で説明させていただきましたように、今年度は５か年の総合戦略を検討していただくために合計３回の開催を予定しています。次回は11月下旬ごろ、最後は２月下旬頃ということで、次回には本日皆さんからいただいたご意見を含めて、具体的な提案内容を事務局よりご提示して、ご意見をいただきながら３回に渡ってまとめていきたいと思います。
　人口ビジョンにつきましては、人口推計は細かな資料でお示しするとともに、どのように目標設定をしていけば良いかお諮りしたいと思います。また日程につきましては、改めて事務局よりご案内いたします。
　本年は３回ということでご協力いただきますようよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

【閉　会】